

ディスコグラフィー収載

ディスコグラフィー【2018No.114】(HP 収載)

分類：CD

作曲家：ハイドン

曲名：チェロ協奏曲 1番・2番他

演奏：ウェン・シン・ヤン／ゲオルク・エガー指揮アカデミア・ダルキ・ボルツァーノ

発売：OEHMS

No. : OC782

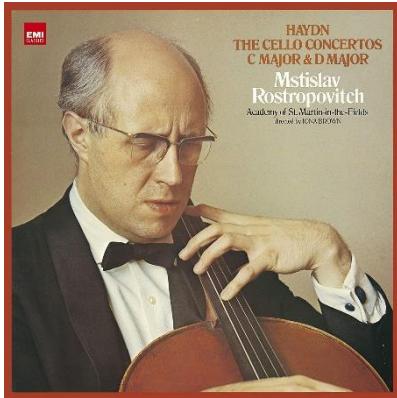
概要：

ウェン・シン・ヤンの出演した PAC ストリングスの演奏会で求めてきたものです。本 CD は、マイナーレーベルのものらしく、ネット検索でも見つけることはできませんでした。ハイドンのチェロ協奏曲は他にも手持ちのものがありますので、それらと聴き比べてみました。



聴き比べたのは次の盤です。

- 1)日本コロンビア COCO-78020 ハイドンチェロ協奏曲 1番・2番
ミクローシュ・ペレーニ／ヤノーシュ・ローラ指揮フランツリスト室内管弦楽団
- 2)BMG BVCD-34002 ハイドンチェロ協奏曲 1番・2番協奏協奏曲変ロ長調
鈴木秀美／ジギスヴァルトクイケン指揮ラ・プレティット・バンド
- 3)EMI ハイドンチェロ協奏曲 1番・2番
ムスティスラス・ロストロポーヴィッチ (チェロ&指揮)／アカデミー室内管弦楽団



4) Harmonia mundi HMC-901816 ハイドンチェロ協奏曲 1番・2番他

Jean-Guihen Queyras／Petra Muellejeans 指揮 Feiburger Barockorchester

今回取り上げた、ウェン・シン・ヤンとエガー指揮アカデミア・ダルキ・ボルツァーノ盤は、ヤンのチェロもエガー指揮アカデミア・ダルキ・ボルツァーノもオーソドックスな演奏で、演奏会で聴いてきたそのままの高弦の艶と低弦のざらつとした感じがでています。

これに対し、ペレーニとローラ指揮フランツリスト室内管弦楽団盤は、廉価版 CD ですが、その割には聴かせるものがありますが、音は一番 CD 臭い音です。

鈴木秀美とクイケン指揮ラ・プティットバンド盤は、明晰で艶っぽい演奏です。こういった演奏を好まれる向きも多いかと感じます。

ロストロポーヴィッヂ（チェロ&指揮）とアカデミー室内管弦楽団盤は、よくもわるくもロストロポーヴィッヂの個性がにじみ出ている演奏で、ロストロポーヴィッヂが歌わせるチェロの歌に載せられてしまいます。

Queyras と Muellejeans 指揮 Feiburger Barockorchester 盤は、Harmonia mundi らしい音作りの音が派手目で、演奏ももう少し抑え気味の方がよいのではないかと感じます。

2012.5.1 収録 ゴーティエ・カプソン／ドゥダメル指揮ベルリンフィル



宮殿の大広間のような会場でのヨーロッパコンサートです。カプソンとドゥダメルの若いコンビが生き生きと演奏し、シューボックスの会場の形状から、ベルリンフィルの音色が本拠地と異なってウイーンフィルのように響きます。

以上